

22PO-am389

薬学共用試験 CBT の結果解析 - 2018 -

○石川 さと子¹², 伊藤 智夫¹³, 中村 明弘¹⁴, 増野 匡彦¹², 石塚 忠男¹⁵, 松野 純男¹⁶, 前田 定秋¹⁷,
小澤 孝一郎¹⁸, 出口 芳春¹⁹, 三田 智文^{1,10}, 飯島 史朗^{1,11}, 宮崎 智^{1,12}, 矢ノ下 良平^{1,13}, 奥 直人^{1,9} (1薬学
共用試験セ, 2慶應大薬, 3北里大薬, 4昭和大薬, 5熊本大薬, 6近畿大薬, 7摂南大薬, 8広島大薬, 9帝京
大薬, 10東大薬, 11文京学院大保, 12東京理大薬, 13帝京平成大薬)

【目的】実務実習を行う薬学生の質的保証を目的とした薬学共用試験は、2017年度に9回目が終了し、2018年度から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下、改訂コアカリ）に対応した試験が始まった。本発表では、2018年度 CBT 本試験の結果を解析し、試験の妥当性および今後の課題などを報告する。

【結果】前年度（2017年度）の CBT は、12月～1月に本試験、2～3月に追・再試験が実施され、全ゾーンを受験した採点対象者は本試験、追試験合わせて 10,992名、最終的な基準点到達率は 98.0%だった。CBT 本試験の正答率の分布は前年度と変わらず、平均正答率 78.4%と中央値 79.0%は前年度よりも若干低下した。最高値は例年並み、最低値は低く、標準偏差は小さい傾向にあった。分野別の正答率は、ヒューマニズム分野を除くと 72.8%～80.8%の範囲にあり、ばらつきが少ない結果となった。また、本試験終了後に再計算した問題セットごとの期待正答率は、99%以上の問題セットの期待正答率±1.25%の範囲内に入った。

改訂コアカリ対応の CBT は、一部の分野で出題数の増減があったが合計出題数（310問）には変更ない。2018年7月には改訂コアカリ準拠の CBT 体験受験を実施した結果、共通問題全体の平均正答率は前年度までと大きな違いはなかった。

【考察】2017年度薬学共用試験 CBT は、運用上の大きなトラブルもなく安定した試験システムが稼働した。2018年度の CBT については現時点で大きな問題は生じていない。体験受験において、これまでのシステムが円滑に運用できることを確認したことから、全国薬科大学・薬学部がこれまで通り公平・公正な試験を円滑に実施できると考えている。本発表では改訂コアカリ対応第1回目となる2018年度 CBT 本試験の平均正答率などを報告する。